

# 党市会議員団が東北被災地を視察 がれき撤去、復旧・復興に急がれる国の支援



発行  
日本共産党  
寝屋川市議員団  
824-1181(内線2399)  
FAX 824-7760  
Email:jcpncc@cc-net.or.jp  
No.2357

太田 とおる  
高柳2-49-2  
Tel.826-1664  
田中 ひさ子  
国松町10-36  
Tel.823-1714  
中林 かずえ  
宝町4-33  
Tel.839-2289  
中谷 光夫  
高宮2-19-5  
Tel.823-5947  
松尾 信次  
下木田町12-6  
Tel.821-7427

## 「釜石の奇跡」の防災教育

### 塩釜市の被災状況を調査

9月28・29日、日本共産党市議員団は、東日本大震災の被災地を視察しました。

1日目は、釜石市の防災課の主任から説明を受け、懇談しました。

釜石市役所が近づくにつれ、壊れたままの店舗や鉄骨むき出しの建物、交差点の信号機が目に見え込んできました。市役所は少し高台に建てられていたために、寸前で1階以上は津波被害から助かりました。

消防署が被災したため、1ヶ月間、市役所に泊まり込んだといいます。電気、電話の復旧に1週間、水やガスの復旧は7月いっぱい

までかかりました。道路は4〜5日で復旧、学校の再開は4月半ばになったといいます。

子ども犠牲者ゼロ、「釜石の奇跡」と報道された防災教育について説明を受けました。

津波被害の可能性が高い地区の鶴住居小学校・釜石東中学校のとりくみを中心に話されました。

文部科学省の平成20年度の防災教育支援事業として、釜石市・市教育委員会・群馬大学災害社会学研究室が「子供の安全をキーワードとした津波防災」



釜石市役所玄関前から見た被災の様子

## 求められる防災計画の見直し きめ細やかな生活再建支援

釜石市役所からは、津波被害を目的の当たりししながら、多賀城までの行程となりました。とくに、陸前高田の状況は、今もテレビ報道の映像そのままです。

た。建物が何一つない平地、5階建ての4階まで破壊された雇用促進住宅、放置されたがれきの山。車窓から残った一本松も見ることができました。

避難所だった塩釜市体育館前の仮設住宅  
宿泊した多賀城のホテルも、仙台港からかなり離れていましたが、ガラス戸を破って、フロントカウンタまで泥水が来たといいます。  
2日目は、党

の手引きを作成しています。小中学校を見通した内容が濃いカリキュラムです。

内陸部からの教職員も多く、津波の恐さを知ってもらう必要もあったといいます。

高齢化率が高いことから「避難所をどうするか」「人的被害は、逃げればゼロにできる」の意見が印象的でした。

塩釜市議団から被災と支援の状況を聞き、沿岸部や仮設住宅などを案内してもらいました。沿岸の多くの島が自然の防波堤、防潮堤になり、津波の到達を遅らせ、小さくしたこと、74局(内、9カ所は情報届かず)ある防災無線で津波情報を知らせたことが、死者、行方不明が少なかったことにつながりました。

市災害対策本部ニュースは市内の放射能測定値を掲載していました。



# 中学校給食検討委員会が中間報告に デリバリー方式導入提案のまとめ

## この間の議論を反映しない

## 委員長の強引な提案、運営に疑問の声

9月27日、第4回中学校給食検討委員会がありました。

前回から持ち越しの「中間報告(案)について」が議題とされました。

前回は、中学校サミットの生徒アンケート結果を受けて、議論が深まりました。

小学校給食について、「大変満足」32%、「まあまあ満足」35%、「普通」24%で回答の9割を占めました。

満足の人に聞いた「何が良かったですか?」の回答は、「味・量・メニュー等内容」43%、「温かいものが食べられた」31%です。「どのような中学校給食になればいいと思いますか?」の回答は、「とにかくおいしい」35%、「栄養バランス」32%、「温かいものや冷たいもの」1%などです。

寝屋川の小学校給食が、生徒からも高い評価を受けていることが示された結果でした。アンケートを受けて、小中一貫教育の中学校給食・食育となるよう求める意見が強く出されました。

◆ 今回の議論では、中間報告(案)の「はじめに」の後段にある「平成25年度の中学校給食実施を考える市の意向を可能な限り尊重し、また、円滑な導入に寄与できるように、これまでの本検討委員会における意見交換、議論を『中間報告』という形でまとめ、ここに報告します。」に沿う進行が行われました。そのため、市が考

える平成25年度のすみやかな実施にふさわしい方式を、委員長はくり返し強調しました。また、中学校の教育活動、カリキュラムに影響を与えないように、との意見も出されました。

数人の委員から、小学校給食の良さの継承や保護者・地域の理解を得る努力、中学校教職員にアレルギー対応の重要さを知ってもらう努力などの意見が出ましたが、最後、委員長が、子どもたちの状況と財政の厳しさを知って中学校給食の実施を、と締めました。

◆ 事務局からの資料、説明を充分検討することなく、自校方式では、運動場に調理場を建てることは困難、給食センターについても場所の検討はしたが、設置は事実上困難、との報告を追認しました。

◆ 傍聴者からは、「あまりにも強引」、「最初からデリバリー方式の結果ありきの茶番」などの声がありました。

意見があまり出ない中、唐突に委員長が「中間報告のまとめ(案)」を提案し、①平成25年度からの実施がのぞましい、②中学校の教育活動の現状に、大きな影響を与えない、ことを基本的考え方として、最も現実的な方式として、「デリバリー方式」を委員会の報告とする確認を

求めました。2時間の予定が1時間少して終わり、委員長の責任で事務局と調整をして「中間報告」をまとめることが確認されました。

## 来年度は「プラスの響き」の復活を

### 文教常任委員会協議会で中谷議員が求める

9月21日、文教常任委員会協議会が開かれました。質問と答弁で1時間の所管質問の中で、中谷議員は、アルカスホールがオープンしたこと、10年間続いてきた、学校の吹奏楽部の切磋琢磨の場となっている「プラスの響き」が今年に行われなかったことについて質問しました。

アルカスホールには、練習場所がないことから、電通大学を借りた2日間の借用料が約22万円、アルカスホー

ル使用料が約50万円弱、ちなみに昨年の市民会館の使用料は21万円ほどだったことも明らかにになりました。

その裏に実行委員会の中心になってこられた方々の献身的な努力があったことを述べ、趣旨、規模から言っても市民会館で復活するよう求めました。

昨年、反省やアンケートを通して、今年「ミュージクデー」として、行った。次年度以降に

### 法律相談のご案内

10月20日(木)午後6時から受付  
市民会館第3・4会議室  
お問い合わせは党市会議員団まで

### 議員日誌



## 中谷 光夫

東北の大震災被災地では、人々の健康が心配される寒さ厳しい冬に向かいます。遅ればせながら、党議員団として岩手から宮城にかけて駆け足の視察をしました。国の支援がまったく見えない実状を痛切に感じました。

がれき・壊れた自動車、復旧・復興に長い時間を要する状況が現実です。何よりも、生活再建支援が必要です。被災地は、漁業と農業が盛んな地域です。沈下した地盤、港の再建、産業復興、個人ではできません。国がやるべきことは、復興を口実にした増税でもTPP参加でもありません。